

令和7年度 第1回 宮崎県総合教育会議 議事録

日 時：令和8年2月4日(水) 10:00～11:00

開催場所：宮崎県庁 本館 講堂

出席者：宮崎県知事 河野俊嗣

教 育 長 吉村達也

教育委員 松山郁子、木村志保、柳和枝、松山竜也（森山委員は欠席）

発言者	内 容
司会 (総合政策 部長)	<p>定刻になりましたので、これより令和7年度第1回総合教育会議を開催いたします。</p> <p>私は本日の会議の進行を努めさせていただく、総合政策部長の川北でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>はじめに河野知事から挨拶をお願いいたします。</p>
河野知事	<p>本日は御多用のところ御出席いただきありがとうございます。日頃より本県の教育行政の振興に御尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。</p> <p>本日は「これから時代に求められる高校教育とは」ということで、人口が減少していく中、生徒数も確実に減っていく中で、国においては高校教育の無償化という大きな変化が生じております。</p> <p>そういった様々な変化、そして高校教育に求められるものというのを様々な観点で時代に合ったものにしていく必要があると考えております。</p> <p>ぜひ確固たる御意見をいただきたいと思っております。</p> <p>今日の議論は人口が減少しても、県内の高校が統廃合するとかそういう議論ではないということは確認をした上で一つの話題提供であります、年末に広島県呉の実家に帰った際、広島の県立高校22校のうち、2033年までに9校、再編統合すると聞きました。</p> <p>今呉市は人口20万ぐらいで、以前は総合選抜で、抽選で3つの高校のどこに行くかわからないというのが自分の時代でしたが、そのうち呉工業高校と商業高校の2つの高校が一緒になるわけです。</p> <p>そんなことで、同級生の間で驚きの声が広がっていたところであります。</p> <p>その背景や考え方は正確には把握しておりませんが、そのような大きな動きがいろんな県であるということを踏まえながら、魅力ある高校教育をこれから提供していく方法を考えていきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
司会	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>本日の協議事項は「これから時代に求められる高校教育とは」でございます。</p> <p>協議事項につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
みやざき文化振 興課長	<p>みやざき文化振興課長の松元と申します。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>私の方から本日のテーマの趣旨についてご説明させていただきます。</p>

発言者	内 容
	<p>知事の挨拶でもありましたように、近年の少子化の進行でありますとか、デジタル化の進展、社会の変化による価値観や、教育ニーズの多様化など、本県教育を取り巻く環境はますます複雑化してきております。</p> <p>加えて、来年度から本格的にスタートいたします、いわゆる高校無償化により、これまで以上に子どもたちの高校進学における選択肢の幅が広がったことで各学校においても様々な教育ニーズに対応していく必要があるものと考えております。</p> <p>高校教育につきましては、大学などの高等教育に進むための学力や、就職して社会に出ていくための専門的な知識、技能の習得などの他、多様な他者と接することで育まれる社会性の構築など、若者が今後の自分の将来を決定していく上で極めて重要な役割を担っていると考えております。この高校教育について、公立私立にかかわらず、今何が求められているのか、また、どのような課題があるのかについて、委員の皆様、それぞれの立場から、様々なご意見をいただき、今後の方向性や施策の参考とさせていただきたく、今回の「これから時代に求められる高校教育とは」というテーマを設定させていただいたところでございます。</p> <p>説明は以上です。</p>
司会	ではまず、15歳年齢人口の将来予測及び本県の県立高校の現状について、高校教育課より説明お願いします。
高校教育課長	<p>高校教育課長の長友と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>まず資料の1ページをご覧ください。</p> <p>数値は、15歳年齢の人口である各年3月の中学校卒業者数を示しており、2025年までは実績値、2026年以降は推計値として、そちらの方に記載しております。</p> <p>なお、2035年以降については、令和2年国勢調査のデータをもとに推計しているものになります。</p> <p>卒業者数はグラフ左端の1989年の約2万人をピークといたしまして、その後は減少を続けて参りました。</p> <p>グラフ中央右寄りの、赤い三角形が示しております 2025年の卒業者数は、10,184人と、ピーク時のおよそ半数となっております。</p> <p>今後は推計値ではありますが、2028年には1万人を下回る見通しであり、2030年に約9,500人、そのあとは、5年ごとに約1,000人ずつ段階的に減少し、2040年には約7,300人程度になる見込みとなっております。</p> <p>次に資料2ページをご覧ください。</p> <p>本県の県立高校の状況についてご説明いたします。</p> <p>令和7年度現在、県立高校は全日制、定時制合わせて36校。</p> <p>生徒数は、そちらに記載しております全日制、定時制を合わせまして、19,308人となっております。</p> <p>1枚めくっていただきまして、資料3ページ左上の円グラフをご覧ください。</p> <p>令和7年度県立高校の学科別在籍者の割合を示しております。</p> <p>普通科系が51.3%、職業教育を主とする専門学科が46%。</p> <p>総合学科が2.7%で、職業教育を主とする専門学科の割合が全国的にも非常に高いことが、本県県立高校の特徴となっております。</p> <p>次に、左下の円グラフです。</p> <p>これは職業教育を主とする専門学科における学科別の在籍者数割合です。</p> <p>工業科が約40%で最も高く、次いで商業科、農業科の順となっております。</p> <p>続きまして資料4ページをご覧ください。</p> <p>上の欄は、全日制県立高校の学科別の募集定員となっております。</p> <p>普通科系学科と職業系専門学科の割合が概ね5:5となっております。</p> <p>続いて、資料5ページをご覧ください。</p>

発言者	内 容
	<p>県内の中学校卒業者数と県立高校の募集定員について 2025 年度と 2040 年度を比較しております。</p> <p>まず、中学校卒業者数です。</p> <p>2025 年は約 1 万人から、冒頭 1 ページグラフの説明で申し上げましたように推計値とはなりますけれども、2040 年には約 7,300 人へと 15 年間で、約 28% 減少する見込みです。</p> <p>地域別に見ますと、南那珂、児湯、東臼杵、西臼杵では 4 割近い減少が予測されています。</p> <p>続いて県立高校の募集定員です。</p> <p>募集定員は現在県立と私立の協議により、県立高校の募集定員は卒業予定者数の概ね 7 割としており、これが将来も続くと仮定いたしまして、2040 年の募集定員を予測しております。</p> <p>これによりますと現在の高校 1 年生が受験した 2025 年度入試は募集定員 7,320 人でしたが、2040 年度入試の募集定員は 5,160 人と算出されます。</p> <p>現在の約 30% 減で、1 学年あたり 54 学級減となります。</p> <p>この 54 学級というのは例えば宮崎市内、普通科 4 校が合わせまして、1 学年 35 クラス、宮崎商業、宮崎工業、宮崎農業、それぞれ 1 学年すべてを合わせまして 54 学級ということになります。</p> <p>その数が、1 学年当たりで減っていくということが予測されております。</p> <p>このような急激な生徒減少の中にあっても本県の強みとする専門教育の質の維持や、各地域における学びの機会の確保が課題となっていると考えております。</p> <p>説明は以上になります。</p>
司会	<p>続きまして、本県の私立高校の現状について、みやざき文化振興課から説明をお願いします。</p>
みやざき文化振興課長	<p>みやざき文化振興課より、私立高校についてご説明いたします。</p> <p>資料の 2 ページをご覧ください。</p> <p>右側になりますが、本県の私立高校は令和 7 年度時点において、14 校ございまして、そのうち 5 校は通信制の課程を併設しております。</p> <p>不登校などの問題を抱える生徒の受け皿となっている状況でございます。</p> <p>生徒数は、単位制を除く全日制と通信制を合わせて 9,387 人となっており、県内の高校生の 3 割強が在籍している状況でございます。</p> <p>募集定員等、入学者数は後程ご説明いたします。</p> <p>次に資料の 3 ページをご覧ください。</p> <p>右上の円グラフが令和 7 年度市立高校の学科別在籍者の割合を示しております、普通科系が 62.3%、職業教育を主とする専門学科が 37.7% でございます。</p> <p>その下は専門学科の学科別在籍者割合を示しております、工業系や商業系だけではなく、県立高校にはない、調理系、看護系、美容系、芸術系学科など、多様な学科が設置されている他、普通科系におきましても音楽系や美容系といった職業教育を行うコースが設けられているなど、多様な教育ニーズに対応している状況でございます。</p> <p>続きまして資料の 4 ページをご覧ください。</p> <p>下の表が令和 7 年度の全日制私立高校の募集定員と入学者数になりますが、募集定員は全日制 3,635 人のうち、約 61% の 2,230 人が普通科系、39% の 1,405 人が専門学科系となっております。福祉系、美容系、芸術系の入学者数欄は、学校が特定されることから統合した数値としております。ご了承ください。</p> <p>なお募集定員につきましては、毎年、私立高等学校連絡協議会において、翌年度の県立学校との募集定員比率について、協議して決定しておりますが、昨今の少子化による子どもの減少を踏まえ、見直しの要望が上がっているところでございます。</p>

発言者	内 容
	<p>その他になりますが、資料には記載してございませんけれども、私立学校の多くで部活動などのスポーツに力を入れており、ゴルフやボクシングでは、全国トップの成績を収めている他、野球やサッカーなど、競技人口の多いスポーツにおいても、国内外で活躍するトップアスリートを数多く輩出している状況でございます。</p> <p>説明は以上です。</p>
高校教育課長	<p>続きまして、本県の県立高等学校教育整備基本方針について説明をお願いします。</p> <p>資料6ページをご覧ください。</p> <p>宮崎県高等学校教育整備基本方針についてご説明いたします。</p> <p>こちらは、少子化の急激な進展などの社会状況の変化に対応するため、令和10年度までの県立高等学校教育の目指す姿を示したもので、令和3年3月に策定し、令和7年3月に改定を行ったものの概要版となります。</p> <p>資料右上にありますように、同方針では6つの求められる学校像を示しております。</p> <p>これらを実現していくため、現在、県教育委員会では、魅力と活力ある県立高等学校教育の推進を行っております。</p> <p>説明は以上になります。</p>
司会	<p>関係課からの説明が終わりました。</p> <p>これから、皆様で議論等を交わしていただければと考えております。</p> <p>皆様には資料、関係課からの説明を踏まえまして、今どのような教育が求められているのか、また、現状を踏まえた課題等につきまして、幅広くご発言をいただければと考えております。</p>
木村委員	<p>保護者としても、4月からのいわゆる高校無償化は、子どもたちにとって進学選択の幅も広がりますし、家庭での経済的負担も軽減されるのでとても関心の高いものとなっています。</p> <p>そこで経済的な心配をしなくていいのであれば、子どもたちはどんな学校に進学して、何を学びたいのかについて関心があります。公立でも私立でも多種多様な学科やカリキュラムがありますので、将来卒業したあとどのような自分の姿を思い描き、また、見据えて高校選択をしてほしい。そのために学校の説明会等、いろいろな資料等を取り寄せて自ら学んでいってほしいなと思いました。</p> <p>また、高校生活におきましても、県立高校では総合的な探究の時間もありますので、その中で自ら課題を見つけて、解決策を模索する力や、具体的に金融リテラシーや情報等の学びを通して社会に出てから実践的に生き抜いていける、ライフスキル等も学んでいってほしい。ただ単に知識の習得だけではなく、社会に出てからも対応できるような生き抜く力を養ってほしいなと思います。</p>
柳委員	<p>子どもたちの数が減っていくというのは現実的なことですけれども、3分の1の子どもたちが私立に通っているという現実もあるということで、宮崎県全体の子どもたちのことを考えたときに、公立・私立がお互いに力を合わせて、子どもたちを育していく大切さを感じているところです。</p> <p>学科や学校数からは、公立の学校のそれぞれの特色や、私立の方で、看護・美容・芸術などやってくださっている、またスポーツのことなど、お互いに補完する部分があり、子どもたちが選ぶときの多様性にも繋がってくるのかなと思ったところです。</p> <p>ホームページも見させていただきましたが、中学生が学校を選択するときに、子どもたち自らが本当に行きたい学校を選べるための情報が、これは中学校の問題でもありますが、例えばホームページであったり、オープンスクールであったりいろんな機会でそ</p>

発言者	内 容
	<p>れをしっかりと手がかりにしながら子どもたちが選べるようにする。</p> <p>それとぜひ、県立、私立含め自分たちの学校の特色や魅力をしっかりと磨き上げていって、それをアピールしていただきたいと思っているところです。</p> <p>教育委員なので、県立高校や支援学校を含めていろんな学校を見せていただきますが、スクールミッションで「こんな教育をしていきますよ」と打ち出しいて、私立の方は「建学の精神」に基づいて「こういう教育をしていきます」ということを打ち出していらっしゃいます。それが最近すごく力強いなと感じています。</p> <p>校長先生の説明を聞いても、熱く語ってくださるので、すごく教育に対して学校が1つになって取り組みながら、県全体の子どもたちを育ててくれているのではないかと思っているところです。</p> <p>そういう方向性は今出てきていて御尽力いただいたりしていると思います。</p>
松山（竜）委員	<p>今求められている教育というふうに考えたときに、教育長が日頃からご指摘されるとおり、本県においては、全国学力学習状況調査の結果を含め、学力の向上というの非常に重要な課題であると私も認識しております。</p> <p>その上で、子ども一人一人の状況、すなわち、学習面だけでなく、生活環境や心身の状態がその子の将来像に応じて、その学びが将来の進路や就労、また社会参加にどのように繋がっていくかを子どもや保護者が実感できる教育という視点もますます重要になるのではないかと考えています。</p> <p>特にいわゆる高校無償化を前に進路選択の幅が広がる中で、公立高校には安心して通えるということに加え、選ばれる理由を明確に示すことが求められると感じています。</p> <p>先日、東京で開かれた全国都道府県教育委員連合会総会に参加しまして、公立高校の魅力向上について他県の取組を伺う機会がございました。</p> <p>例えば山梨県や佐賀県では工業系教育を事例として、地元企業や地域産業と連携したデュアルシステム型の学習を導入して実践性を前面に押し出す取組が行われています。</p> <p>新潟県や広島では地域一体となった、「小規模校=地域の核」という考え方で、中山間地域の高校を、教育機関+地域づくりの拠点として位置付け、自治体と連携し、コーディネーターの配置や地域資源を活かした学びを行っておりました。</p> <p>このような取組は宮崎県と非常に親和性があり、日南市や西臼杵またえびの市等の高校の存在自体が必要不可欠であるような地域においては、小規模校を弱みでなく、地域と結びついた強みとして捉えるという視点は、本県の中山間地域にも通じるものがあるのではないかと考えました。</p> <p>こうした視点で改めて宮崎県を見ると、本県は公立高校の生徒数に占める専門高校生の割合が令和6年で45.8%と全国トップでありました。</p> <p>これは宮崎県が全国的に見ても、公立の専門学校が子どもたちの進路や就労を支える責任を強く担っている県であるというふうに考えます。</p> <p>さらに本県では高等特別支援学校において、企業と連携したデュアル教育を通じ卒業後の一般就労を見据えた取組が進められています。</p> <p>こういった特別支援教育で培われてきた就労をゴールに見据えた教育や一人一人に応じた支援をしているというのは、専門高校をはじめとする公立高校全体の魅力化に生かせる重要な強みではないかと考えています。</p> <p>今後は、専門高校の学びや就労に繋がる取組をわかりやすく見える化して、県全体として配信していくことが生徒や保護者の安心に繋がるのではないかと考えています。</p>
松山（郁）委員	<p>前半の説明を聞いていまして、少子化が避けては通れないということで、私が気になるのは県全体、各自治体のそもそもの人口が減ってきているということです。</p> <p>自治体が30年後、40年度に維持できるのかというところが不安に思っています。教育だけでなく、行政全体で考えないといけないことと考えていますが、自治体を維持していくために住民がいなくてはいけないです、住民がいるためにはそこで職業があつ</p>

発言者	内 容
	<p>て、生計が立てられて、子育てができる、子育てができるということはそこに学校がある、それでいて苦なく自然に通学できる環境が必須だと思います。少子化の中で、統廃合の進行やいろいろな変化があると、山間部は学校が少なく、公教育が担う役割が非常に重要だと考えています。</p> <p>もちろん私立学校との交流も必要ですが、各地域で必ず教育が受けられる環境を県全体で維持できるように努めていく必要がある、教育委員会だけでなく県全体で考えていく必要があると思っています。</p> <p>仮に統廃合がどうしても必要だったとしても、通学の支援や、行きたい学校、特色ある学校に通学できる環境を整える、情報をしっかりと提供できる環境を整える、今ネットや配信でも公平な教育が実現しつつあるので、そういったところを維持して住んでいる地域で不公平が生じないように連携して、就職を目指している生徒も多いと思うが、県外に進学して地域に貢献したいという大きな夢を支援できるような体制をつくっていけるように教育委員として考えていきたいと思っています。</p>
吉村教育長	<p>私の方から本県の教育委員会の今後の取組等についてご紹介をさせていただきます。</p> <p>各委員から話があったように、県立高校の大きな役割といったしまして地域人材の育成、ひいては地域の活性化、特に中山間地の振興という側面は県立高校の役割としてございます。</p> <p>そういう中にあって、国が発表している資料にはなりますが、デジタル化、生成A Iの進化に伴い、団塊世代ジュニアが高齢者になる 2040 年には、いわゆるホワイトカラーと言われる管理や事務、販売を担う人材の多くが余剰人員となります。</p> <p>その一方で、エッセンシャルワーカーと呼ばれます、1 次産業の担い手、輸送・運搬を担う方、医療福祉、そして教育を担う人たち、こういった人材が著しく不足をする予測です。</p> <p>併せて、デジタル化、生成A I の進化を支える、いわゆる理系人材も不足をするという予測でございます。</p> <p>松山委員の方からご紹介いただきましたが、本県は公立高校の在校生に占める産業系と普通科系の割合がほぼ半々です。これは全国トップの割合となっております。</p> <p>併せて、本県の普通科の理系人材は 45 : 55 で理系の方が多い。他県は、都市部にいくほど普通科の方が多いですが、本県は理系の方が多いという素地がございます。</p> <p>従いまして、国も今後、補正予算、当初予算で一新していただけるんですけど、いわゆる産業教育、特に農業・工業の強化、理数を中心に学ぶ制度の確保に今年度の補正予算と来年度の当初予算の中でしっかりと取り組んでいくことしております。</p> <p>併せて、そういう人材をしっかりと育成していく必要がありますが、その一方で、教員の確保が非常に厳しくなっております。</p> <p>小中学校ほどではないですが、高校教育につきましても、今年度の倍率が 4.2 倍ということで年々下がっております。</p> <p>併せて、教科において差がございまして、特に国語、あと農業・工業・水産を担う先生の採用が大変厳しくなっている状況にございますので、この辺もあわせて見ながら本県高校教育の充実にしっかりと努めていく必要があると考えているところです。</p>
柳委員	<p>先週ひなた教師ドリームカフェを教育委員会の方で主催をして、先生に興味がある、先生になりたい中高生が一同に集まって、現在先生をしている話の方からお話を聞いたりする場がありました。</p> <p>そこに参加している子どもたちは、公立の子どもも私立の子どもたちも一緒になっていて、みんながその場に一緒にいるということだけでもすごく交流になってきていました。</p> <p>お互いに質問をしたりする様子も聞きながら、やっぱり学校を超えた繋がり、刺激のしあいがすごくいいなと思ったところです。</p>

発言者	内 容
	<p>また、総合的な探究の時間が令和4年度から入ってきて、高校生が活躍する場を、新聞等見聞きする機会が多くなってきたと思っています。</p> <p>探究の時間で、地域の課題と一緒に考えていくたり、中には、当然セールスとか、理系のこともありますが、それを本当に深くきわめていくような研究をやっている学校であったり、それをまた、全国や世界に向けてなどいろんな子どもたちが育ってきていることもすごくたくさんましく思っているところです。</p> <p>この探究というのは、子どもたち自身が自分を見つめることにもなるし、正解がない問いに対してどうそこを深めていくのか、主体性を育てる意味でも、自分の好きを探していく上でもすごく大事なものではないかなと思いますので、学ぶ楽しさとか、ぜひこの探究というのを、より大事にしていっていただきたいなと思っています。</p> <p>それと、公立・私立の子どもたちの交流の場がいろんなところで増えていると思います。国スポ・障スポのぼり旗、ポスターを県内の高校生が作っていくということで、こういう場がすごくあるなと思っています。</p> <p>高校文化祭のときにも、オープニングで定時制の子どもさんが司会をしていたと思いますが、支援学校の子どもたちと県立の子どもたちと、いろんな学校・子どもたちと一緒に力を合わせる場を県の方でも考えていただいており、そういうことはすごく大事じゃないかなと思ったところです。</p> <p>探究の中で、地域の企業とか、地域を知るということで、地域で活動することで手応えを感じて、また地域に戻って働きたいという子どもたちのこともいろいろ聞いていますので、ぜひ探究を大事にした教育ということを考えいただければと思っているところです。</p> <p>また、中学校との連携という点で、中学校の方でどんなことをしてきたのかということとも知りていただきたいと思います。</p> <p>コミュニティ・スクールも県立高校でも始まっていますので、いろんな地域の方々からの情報も入ったり、また、高校生が地域に関わることも増えてきたり、地域を知ることが社会との繋がりを自分なりに感じる機会もあると思いますので、ぜひそこも大事にしていただきたいと思ったところです。</p> <p>事例を紹介させていただくと、ある地域の事務所に、私立の高校生が相談に来て、その高校生は、その地域で、中学校のときもボランティアに参加していた子どもさんということでした。地域の冬を楽しむ会ということで、高校1年生が中心になって子どもたちにどうしたら楽しんでもらえるのかと企画したということでした。</p> <p>中学校時代に、地域と一緒に歩いてボランティアをしてすごく手応えを感じて、自ら地区センター長を訪ねてお話をしたということでした。</p> <p>このように0歳からずっと学びがあって、そして今の高校生になっているということで見ていただけるとありがたいなと思います。</p>
木村委員	<p>県立高校におきましては、県外からの生徒を受け入れる飯野高校、高千穂高校の地域みらい留学など、学校独自の魅力作りによる全国からの生徒を呼び込む方法で生徒数の確保をしており、効果的な方法だと思います。</p> <p>一方で、年々増加している不登校の生徒、一律の学校教育だけでは対応しきれない生徒の様々な多様なニーズに応える学校環境の整備というのを、県立、私立一緒に今後も強化していく方向性はどうだろうかと思っています。</p> <p>定時制、通信制が県立・私立でありますけれども、そういった通信教育にはメリット・デメリットもあって、自分の好きな時間に好きなペースで学べるといいい面もあるけど、学習への深い理解が得られない場合があり、そういう子たちのモチベーションも保つことが難しいと思います。</p> <p>この学校であつたら十分に学べて、卒業後も進学や就職についても定評がある、宮崎県に行くと学べるよというような評価が高くなると、宮崎で学ぼうと思う子どもが増えてくると思います。</p>

発言者	内 容
吉村教育長	<p>オブザーバーとして私学の山下副会長にご参加いただいておりますので、定員等の考え方について、現状考えていることをお話しさせていただきます。</p> <p>現在、定員の充足率につきましては県立高校約 87%という状況にございまして、中学卒業者卒業予定者数の 7割を県立学校が、私立学校には前年度と同様の規模を募集定員とさせていただいて取り組んでいるところです。</p> <p>少子化が進む中で、令和 3 年度に整備基本方針を策定しております、その中では学校の規模についてもいろんな方針を示しているところです。</p> <p>実際、定員を絞ったのは令和 6 年度以降で 40 名を削減したという状況に現状はとどまっています。</p> <p>併せて、学校の魅力向上の 1 つとして、学科再編というのは策定後実施はしておりませんので、令和 8 年度と令和 9 年度に 2 校学科再編の予定をしているという状況にございます。</p> <p>ここからは個人的な見解でもありますが、まず学校の規模につきましては、県立高校の果たす役割、先ほど地域人材の育成と申し上げましたが、県立学校といたしましては、高校教育の機会の確保、誰でも高校教育が受けられるような体制をしっかりと整備するということで、普通科、産業系のほか定時制、通信制、あと特別支援学校を設けていくところです。</p> <p>教員不足が続く中、多様な生徒を誰一人残さないような教育を行っていく上で、適当なもしくは望ましい規模というのを今後考えていく必要があると考えております。</p> <p>また予算全体に限りもある中で教育効果を最大限に発揮できる規模というのも考えていいかないといけないと思っておりまして、現状 1 学年 40 人という形で考えておりまして、それに合わせて教員の配置も行っているところですが、それにどこまでこだわっていいく必要があるのかというのも検討すべきかと考えております。</p> <p>併せて、今後さらに生徒数の減が見込まれる中、定員の未充足が続いている学校が県立高校におきましても半数以上を占めている状況にあります。</p> <p>長く未充足が続いている学校学科につきましては、早急な見直し、もしくは再編を検討していく必要が、魅力化という点でもあるのかなと考えているところです。</p> <p>県立と私立が話し合う公私立高等学校連絡協議会の場がありますので、しっかりと公立、私立がそれぞれ果たす役割、それに伴う定員のあり方等について今後積極的に意見交換、また連携して取り組みを考えていきたいと考えているところです。</p>
司会	<p>中山間地域における核としての学校のあり方の検討や社会で生き抜く力を身につけるような教育が必要であるというご意見がありました。</p> <p>また、公私立ともにご自分の学校の魅力の磨き上げ、就労における取組の見える化ももっと進めていくべきという意見もありました。</p> <p>また、県立・私立が力を合わせて、補完するとともに、人材育成を図るというようなご意見をいただいたところです。</p>
柳委員	<p>学校の魅力化とも関わると思いますが、県立学校の施設の老朽化についても、トイレの洋式化で県の方でも対応していただいているが、学校が綺麗というのは魅力に繋がっていきますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っています。</p>
知事	<p>お話を伺いながらも、いろんな論点が山ほどあるなと思っています。</p> <p>数の問題や質の問題、それからいろんな変化への対応。生徒数が坂を転がり落ちるぐらいの減少をしている中で、高校の数がそもそもこれでいいのかというのにはありますよね。</p> <p>質の問題で言うと、実業系がこれだけ多い。教育長が言われたような、A I も含めて</p>

発言者	内 容
	<p>いろいろ変化をする中で、求められる教育のニーズの変化について、おそらく、熊本や福岡であればもっとここに半導体関連人材を育成するというような、もっと大きなテーマとして出てくるんじゃないかなと思います。</p> <p>教育内容に関して言うと、高専の位置付けはどう考えるかとか、そういったところもあるでしょう。</p> <p>それから公立・私立の問題、定数の問題など、高校教育の無償化という大きな変化があろうとする中で教育の現場に4月以降どういう変化が起こっているか、既に今の入学応募状況も出ていますので、そこにもっとフォーカスすべきじゃないかなと思います。</p> <p>だから公私の役割分担を今後どう考えていくのか。公立高校の魅力を高めていくにはどうしたらいいかということで、国もそれに対して、財源の手当をしながら、しっかりと魅力を高めていく後押しをするということになっています。</p> <p>去年の年末、高校無償化、給食費の無償化も含めて、いろいろ議論がある中で、いろんな現場に様々な課題があるのではないかという地方の声を踏まえて、国が財源を手当してもらうということがありますので、それをどう活用していくのかという話題もあるだろうなと感じingおりました。</p> <p>水産や福祉は、公立も私立も含めてですけど、定員の応募状況を見ながらこんな状況で大丈夫なのだろうかと思うところもあります。</p> <p>それから自治体のあり方も大きな変化があろうとしており、国の地方制度調査会の中で、例えば県と市町村の役割分担を今まで分権ということで国・県から市町村へ権限をおろすということになっていましたが、市町村の人口減少、技術系、専門系を含めて市町村の役場の職員の確保が困難になっている中で、垂直保管と言いますか、逆に市町村の機能を県に移してというような議論が進行している状況があります。</p> <p>いずれ人口もおそらく宮崎、都城、延岡を中心に3局にもっと集約するような姿がある中で、でも学校は違うよねと。地域人材だとか地域振興における学校の役割というのがありました、おそらくこの10年20年30年先を見据えたときに、どういう役割を学校に持たせて、学校を保っていくのか。一学級40人という定員を30人だとか20人へと変えていったときに、子どもたちの教育としてそれでいいのかとか論点があるというところです。</p> <p>しっかりこういった課題を一緒になってやりながら、今後1つ1つ議論しやっていかないといけない、本当に大きな変化に直面しているなということを改めて感じました。</p>
司会	<p>教育委員の皆様、いかがでございますか。 よろしいですか。</p> <p>様々なご意見をいただいたところでございます、ありがとうございます。 それでは最後に改めて知事よろしいですか。</p>
知事	<p>先ほど申し上げたところでありますが、委員の先生方の話を伺いながら自分なりにいろいろな課題を申し上げたところであります。</p> <p>今日はこの場で何かの結論を出すということではありませんが、様々な課題それから変化に対応する今後のあり方について、しっかり見据え、議論して、方向性を見出していくかなくてはならないと確認した中で、今日の会議の意義があるんだろうなと思います。</p> <p>たくさんの論点がありますが、公立、私立それぞれの役割、そして特色をどう生かしていくのか、そして中学校との連携という話があって、大学との連携というのも多分論点としてあるのだろうなと思います。</p> <p>やはり将来この地域の、それから日本の将来に直結するとても重要な課題だという認識のもとでこれからもしっかり議論をして深めて、取組を進めて参りたいと思います。</p>

発言者	内 容
部長	<p>以上でテーマに関する協議は終了させていただきます。</p> <p>せっかくの場ですので、協議事項以外で何かご質問、ご意見等がございましたら。教育委員の皆様いかがでございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは次第の4に移らせていただきます。事務連絡ということで、教職員課からお願ひいたします。</p>
教職員課長	<p>教職員課長、菊池と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>表題に書かせていただきました実施計画の策定について説明させていただきます。</p> <p>まず、給特法の一部改正をご覧ください。</p> <p>この実施計画については、昨年6月のいわゆる給特法の一部改正により、教職員の働き方改革のさらなる推進が挙げられ、今年度末までの策定が義務づけられたものであります。</p> <p>令和8年度からは、総合教育会議や定例教育委員会においても、目標の達成状況等を報告することが求められております。</p> <p>なお、政府の掲げる目標は記載の通りで、各自治体の実情等から、取組内容や目標等を、この実施計画に定めることとなっております。</p> <p>これに対し、本県の県立学校教職員の時間外在校等時間の状況をご覧ください。</p> <p>こちらは、県教委が定点で調査した数値となっておりますが、表内の赤文字をご覧いただいて、依然1ヶ月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える教職員が多い状況であります。</p> <p>この赤字部分の教職員を45時間以下にシフトする取り組みを強化していく必要がございます。</p> <p>次にこの実施計画の内容等をご覧ください。</p> <p>現在、3月末の公表に向け作成、策定中でございますが、このような柱で内容構成する予定でございます。</p> <p>次に令和8年度以降についてですが、冒頭に申し申し上げたように、次年度以降、総合教育会議におきましても計画の進捗状況等について報告させていただきたいと考えております。</p> <p>最後になりますが、本計画の着実な実施により、学校における働き方改革をさらに推進して参りたいと考えております。</p> <p>説明、報告は以上でございます。</p>
司会	<p>以上で、次第の事項はすべて終了となります。</p> <p>それでは閉会に当たりまして、最後に知事から、よろしくお願ひします。</p>
知事	<p>ありがとうございました。</p> <p>今たまたまキャンプシーズンが始まって、昨日はオリックスの幹部の皆さんと夜食事しながら意見交換をしました。オリックスの（ドラフト）一位は延岡学園の選手、そして、二位は延岡出身の選手が選ばれたほか、神村学園にも4人本県出身の選手がいて、インターハイ、選手権を連覇と、本当にすばらしい人材が育っているなど感じています。</p> <p>宮崎に残ってほしいと思いますが、それは向こうがいろんな魅力があるわけで、そういう意味ではやはり魅力を高めていくことが大事だと思います。</p> <p>先ほど少し締めの挨拶は申し上げたところでありますが、とても重要な課題だという認識のもとで、これからそれぞれの立場で、また、県庁内の垣根を越えて連携をして教育の取組を進めて参りたいと思います。</p>

発言者	内 容
司会	以上をもちまして本日の総合教育会議を閉会させていただきます。 皆様ありがとうございました。